

信州の伝統的工芸品 松本家具

経済産業大臣指定伝統的工芸品 昭和51年2月26日指定



松本家具の概要

17世紀末にはすでに産地形成し、松本藩内の需要に応じていました。ケヤキ、ミズメ、ウダイカンバ等の無垢材を木地として、塗装には漆、柿渋を使用し、筆筒、飾棚、座卓、文机など、伝統的な和家具を生産しています。特徴とするその

堅牢性は、100年以上続いている多種多様の巧緻な組接技法の継承により支えられています。

和家具で培った加工技術^{たんす}を応用して、イス、テーブルなどの洋家具の製造へと発展してきました。

【主要産地】

松本市
塩尻市
木祖村
安曇野市



歴史・沿革

松本家具の起源は古く、天正10年(1582年)松本城を中心に城下町を形成した頃と推定され、松本藩の統制下において城下町の商工業の一つとして発展しました。

その後、元禄10年(1697年)松本藩が行った「元禄十年丑年改諸職人役料調」によると、松本町の諸職人のうち家具に関するものとして指物屋16人、大工46人、木獲屋9人、塗師屋8人、鍛冶屋46人等がみられ、すでに産地を形成していました。

指物技術は建築技術から分化したものと言われているように、当時家具の製造は家大工、船大工、水車大工などの兼業で

ありましたが、上記指物屋、大工等は松本藩域経済圏において武士、町人等の家具の供給者として、その製造に携わっていました。

江戸末期の松本家具で最も代表的なものに帳筆笥があります。この筆笥は当時松本で生産された特別の型をしており、他の松本家具と同様極めて堅牢、剛健です。

これに取付ける鉄金具類の製作者、いわゆる銹職や錠前屋が松本の旧東町、泉町に向って軒を連ね、明治初期にはその数60軒を数えたと言われていました。また、鉄味を生かした剛健で華麗なその図柄は現代においても賞味されています。

当初は地元とその周辺地域の需要を対象としていたところ、明治時代後期の鉄道の発達により各地へ出荷されるようになりました。

大正4年の記録によると、松本の指物は製造戸数53、さらに昭和13年には製造戸数329に達していました。



産地の取組

民藝運動の一翼として

太平洋戦争後、柳宗悦が松本を訪れ、家具製造の衰退状況を大変惜しまれました。そこで、新作民藝運動の一つとして松本民芸家具の創始者である池田三四郎が、松本家具の製造、復興に取り組み始めました。



池田三四郎と柳宗悦

生活に密着した家具づくり

松本家具は、必要な部分に可能な限り手仕事にて製作しています。濱田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチ…など数々の先達の助力を得ながら、現在に至ります。



バーナード・リーチによる椅子の製作指導

松本家具は、松本地方の伝統的和家具です。複雑な木組の技術によって造られています。

この技術を元に、和家具と洋家具を本格的に結合し、使う人が使い込むほど味わい深い、本物の家具を製造しています。

アクセス



●松本ICから車で10分 ●塩尻北ICから車で20分

松本家具工芸協同組合

〒390-0811 長野県松本市中央4-7-5

TEL0263-36-1597 FAX0263-32-3802

URL http://matsumin.com/40_news/44_info/44_coopo.html

主な製品と伝統的技法を生かした製品

◎中落茶布台



◎朝鮮棚



◎ロッキングチェア



◎ウインザーチェア



◎ラッシュチェア



◎テーブルセット



◎サイドボード



使えば使い込むほどに
味わいが

松本家具は、太平洋戦争終了後、民藝運動（みんげい）の一環として復興しました。伝統的技法を受け継いだ和家具の製造だけでなく、その巧緻な組接技法を生かし、洋家具の製造へと発展していきました。流行を追うのではなく、あくまでも使い手のことを思い、使い込めば使い込むほど味わいのある家具づくりに取り組んでいます。

◆木材



栈積みにより約1年天然乾燥します。中間期に「積み替え」をし乾燥を平均化します。
人工乾燥機で乾燥することにより、現在の生活様式でも利用できる家具の製造を行います。

◆鯨留しやち どりゅ (木地加工の伝統的技法)



「違胴付留ホゾ差鯨接」、通称「鯨留」は、松本家具の堅牢さの代表です。



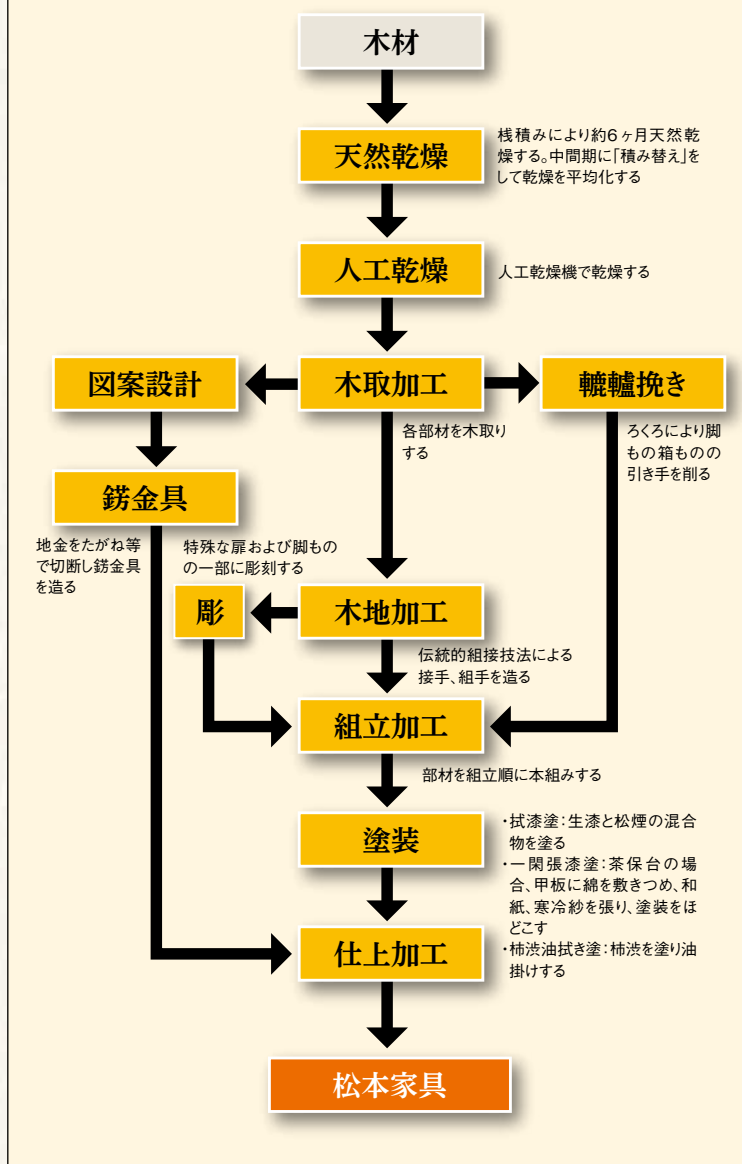
組立時に、「鯨栓」と呼ばれる木片を打ち込むことで、二つの部材がしっかりとつながり、木材の伸縮にも対応できます。

◆蟻あり ざん (木地加工の伝統的技法)



天板が反ることを防ぐため、蟻あり ざんの技法を使います。ホゾの幅を微妙に変えることにより、接着剤などを使わずに、木と木を接合します。

【製造工程】



技 一人ひとりが最終製品に責任を

見えないところも丁寧に、しかし頃合いを持って製造することが真の職人。平刃鉋の扱いから基本を学び、毎日が真剣勝負で製品造りに邁進しています。



職人の思い込めて「銘」を彫る

職人の思い込めて「銘」を彫る自分の一生よりも長く使って欲しい心を込めて製造した家具。「仕事に責任を持つ」という思いも添えて、家具の裏には職人の銘が刻まれています。

